



平成27年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年1月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ジェイグループホールディングス

コード番号 3063 URL <http://www.jgroup.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 新田 二郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長

(氏名) 赤工 朝飛

TEL 052-243-0026

四半期報告書提出予定日 平成27年1月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年2月期第3四半期の連結業績(平成26年3月1日～平成26年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年2月期第3四半期	10,054	19.8	△43	—	△20	—	△56	—
26年2月期第3四半期	8,392	15.4	△121	—	△81	—	△75	—

(注) 包括利益 27年2月期第3四半期 △62百万円 (—%) 26年2月期第3四半期 △86百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年2月期第3四半期	△7.04	—
26年2月期第3四半期	△10.17	—

(注) 当社は平成25年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を200株に分割し、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用しておりますので、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	%	円 銭		
27年2月期第3四半期	8,928	—	1,955	—	21.9	244.11		
26年2月期	7,706	—	2,030	—	26.3	253.92		

(参考) 自己資本 27年2月期第3四半期 1,952百万円 26年2月期 2,030百万円

(注) 当社は平成25年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を200株に分割し、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用しておりますので、1株当たり純資産につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年2月期	—	500.00	—	1.00	—
27年2月期	—	1.00	—	—	—
27年2月期(予想)	—	—	—	1.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は平成25年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を200株に分割し、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用しております。平成26年2月期第2四半期については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 平成27年2月期の連結業績予想(平成26年3月1日～平成27年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,500	18.2	220	—	236	—	89	—	11.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料3ページ「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年2月期3Q	8,196,400 株	26年2月期	8,196,400 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

27年2月期3Q	200,000 株	26年2月期	200,000 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年2月期3Q	7,996,400 株	26年2月期3Q	7,419,236 株
----------	-------------	----------	-------------

(注) 当社は平成25年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を200株に分割し、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用しておりますので、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等が様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の金融政策や経済政策から株価回復が持続し、緩やかな景気回復基調にあるものの、消費税増税の影響が長期化していることや実質所得の減少など、先行きは不透明な状況が続いております。

外食業界におきましては、低価格チェーンが苦戦するなど業態の選別が進んでおります。また、原材料や人件費などのコストは上昇傾向にあり、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような環境のもと、当社グループでは、中長期計画の達成を目指して新規出店に注力し、13店舗を新規出店、6店舗をリニューアルオープンいたしました。平成26年3月には、居酒屋を中心とした飲食事業を展開するサンクスマインド株式会社を連結子会社化し、6店舗を取得いたしました。これらにより、平成26年11月末日現在の業態数及び店舗数は、55業態126店舗（国内125店舗、海外1店舗）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は10,054百万円（前年同期比19.8%増）、営業損失は43百万円（前年同期は営業損失121百万円）、経常損失は20百万円（前年同期は経常損失81百万円）、四半期純損失は56百万円（前年同期は四半期純損失75百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 飲食事業

新規出店に注力するとともに、サンクスマインド株式会社の連結子会社化により6店舗を取得いたしました。

新規出店におきましては、平成26年3月に、「舌一（タンピン）」（愛知県豊田市）及び「88 huituit（ユニットユニット）ららぼーとTOKYO-BAY」（千葉県船橋市）、4月に、「猿Cafe（サルカフェ）愛知学院大学名城公園キャンパス店」（名古屋市中村区）、「88 huituit 名駅店」（名古屋市中村区）、「The Oyster Bar Kobe（ザオイスターバーコウベ）」（神戸市中央区）及び「The Oyster Bar Shizuoka（ザオイスターバーシズオカ）」（静岡市葵区）、5月に、初のビアガーデン運営となる「静岡パルシェビアガーデン」（静岡市葵区）の出店に加え、「爽鶏屋（そうどりや）名駅三丁目」（名古屋市中村区）、「猿Cafe町田マルイ店」（東京都町田市）、「二六丸（ニロクマル）名駅店」（名古屋市中村区）、7月には、1年間期間限定の物産展型居酒屋「鹿児島うまかもん市場」（名古屋市中村区）をオープンいたしました。また、9月には、テイクアウト惣菜店「九州うまかもん屋」（岐阜県各務原市）を初出店するとともに、同月に、新業態「MARCADO（マルカド）」（神奈川県川崎市）をオープンいたしました。

既存店におきましては、「ガチ韓Lucent（ガチカンルーセント）」（名古屋市中村区）を「伊助（イスケ）」、「88 huituit 泥江町店」（名古屋市中村区）を「tantan（タンタン）」、「庵GURA（アグラ）金山店」（名古屋市熱田区）を「爽鶏屋金山店」、「88 huituit栄広小路店」（名古屋市中区）を「The Oyster Bar Nagoya（ザオイスターバーナゴヤ）」としてリニューアルオープンするなど、6店舗を改装いたしました。

その結果、飲食事業における売上高は8,963百万円（前年同期比22.0%増）、営業利益は293百万円（同101.6%増）となりました。

② ブライダル事業

「LUCENT Mariage Tower（ルーセントマリアージュタワー）」が堅調に推移いたしました。また、「LA ETERNITA（ラ・エテルニータ）」について、下半期以降の挙式獲得に向け、平成26年8月下旬から9月上旬にかけて改装に着手いたしました。その結果、ブライダル事業における売上高は743百万円（前年同期比0.1%減）、営業利益は62百万円（同7.0%増）となりました。

③ 不動産事業

テナントビル「ダイヤモンドウェイ」や「G-SEVENS（ジーセブン）刈谷」などの賃貸収入に加え、グループ会社間の賃貸収入が堅調に推移いたしました。また、平成26年11月に、独立支援の一環として、全フロアを当社グループから独立した社員が運営する飲食店ビル「ジェイチル名駅」（名古屋市中村区）を開設いたしました。その結果、不動産事業における売上高は1,280百万円（前年同期比9.6%増）、営業利益は114百万円（同11.3%増）となりました。

④ その他の事業

広告代理業及び卸売業等のその他の事業における売上高は647百万円（前年同期比6.7%増）、営業利益は56百万円（同31.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は8,928百万円（前連結会計年度末比1,222百万円増加）となり、負債は6,972百万円（同1,297百万円増加）、純資産は1,955百万円（同74百万円減少）となりました。

流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ総額で421百万円増加し1,743百万円となりました。これは、現金及び預金が132百万円増加、売掛金が142百万円増加したことなどが主な要因であります。

固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ802百万円増加し7,178百万円となりました。これは、新規出店やリニューアル等の設備投資によって、有形固定資産が615百万円増加、差入保証金が161百万円増加したことなどが主な要因であります。

繰延資産につきましては、株式交付費の減少を主因に、前連結会計年度末に比べ2百万円減少し6百万円となりました。

流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ982百万円増加し3,116百万円となりました。これは、買掛金が340百万円、1年内返済予定の長期借入金が161百万円、未払金が420百万円それぞれ増加したことなどが主な要因であります。

固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べ314百万円増加し3,856百万円となりました。これは、長期借入金が280百万円増加したことなどが主な要因であります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ74百万円減少し1,955百万円となりました。これは、利益剰余金が四半期純損失の計上及び中間配当に伴い72百万円減少したことなどが主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年2月期の連結業績予想は、売上高13,500百万円、営業利益220百万円、経常利益236百万円、当期純利益89百万円を見込んでおります。当第3四半期連結累計期間につきましては営業損失を計上しておりますが、売上高は増加して推移しており、今後の業績は繁忙期を含む第4四半期の業況に影響を受けますので、平成26年4月14日に公表いたしました通期の連結業績予想につきまして、現時点での変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	708,393	841,140
売掛金	267,947	410,926
商品及び製品	4,882	2,832
原材料及び貯蔵品	75,322	92,263
その他	281,327	411,670
貸倒引当金	△16,126	△15,259
流動資産合計	1,321,747	1,743,573
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,004,053	3,360,522
土地	1,428,664	1,632,852
その他（純額）	522,857	577,284
有形固定資産合計	4,955,575	5,570,659
無形固定資産	31,764	53,996
投資その他の資産		
投資有価証券	8,220	8,230
差入保証金	1,147,130	1,308,185
その他	250,751	258,703
貸倒引当金	△17,776	△21,574
投資その他の資産合計	1,388,325	1,553,544
固定資産合計	6,375,666	7,178,200
繰延資産		
株式交付費	5,136	3,424
社債発行費	3,564	2,981
繰延資産合計	8,701	6,406
資産合計	7,706,114	8,928,180

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	264,746	605,564
1年内返済予定の長期借入金	818,402	980,243
1年内償還予定の社債	46,000	46,000
未払金	637,855	1,058,313
未払法人税等	50,645	21,396
賞与引当金	-	13,060
その他	316,355	391,670
流動負債合計	2,134,004	3,116,248
固定負債		
社債	184,000	148,000
長期借入金	3,012,886	3,292,932
資産除去債務	60,637	65,745
その他	284,168	349,812
固定負債合計	3,541,691	3,856,489
負債合計	5,675,696	6,972,737
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,068,969	1,068,969
資本剰余金	998,969	998,969
利益剰余金	64,781	△7,488
自己株式	△76,000	△76,000
株主資本合計	2,056,719	1,984,449
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△26,300	△32,444
その他の包括利益累計額合計	△26,300	△32,444
新株予約権	-	3,438
純資産合計	2,030,418	1,955,443
負債純資産合計	7,706,114	8,928,180

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)
売上高	8,392,550	10,054,823
売上原価	2,573,702	3,097,819
売上総利益	5,818,848	6,957,003
販売費及び一般管理費	5,939,940	7,000,301
営業損失(△)	△121,092	△43,297
営業外収益		
受取利息	1,340	1,031
協賛金収入	69,370	64,574
設備賃貸料	3,227	4,558
為替差益	15,274	6,192
その他	13,623	7,522
営業外収益合計	102,835	83,879
営業外費用		
支払利息	47,962	50,888
その他	15,748	10,387
営業外費用合計	63,710	61,276
経常損失(△)	△81,967	△20,694
特別損失		
店舗閉鎖損失	8,302	3,002
特別損失合計	8,302	3,002
税金等調整前四半期純損失(△)	△90,270	△23,696
法人税等	△14,822	32,580
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△75,447	△56,277
四半期純損失(△)	△75,447	△56,277

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△75,447	△56,277
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△11,466	△6,143
その他の包括利益合計	△11,466	△6,143
四半期包括利益	△86,914	△62,420
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△86,914	△62,420

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	飲食	ブライダル	不動産	計				
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	7,275,811	744,425	142,254	8,162,492	230,057	8,392,550	—	8,392,550
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	74,307	—	1,026,690	1,100,997	377,124	1,478,122	△1,478,122	—
計	7,350,119	744,425	1,168,945	9,263,490	607,181	9,870,672	△1,478,122	8,392,550
セグメント利益又は損失(△)	145,355	58,102	103,163	306,621	43,142	349,764	△470,857	△121,092

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告代理業や卸売業、有料職業紹介業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 △470,857千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「飲食事業」セグメントにおいて、株式会社SARUの全株式を取得し子会社化しております。当第3四半期連結累計期間において、当該事象によるのれんの増加額は2,081千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	飲食	ブライダル	不動産	計				
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	8,881,722	743,397	152,739	9,777,859	276,964	10,054,823	—	10,054,823
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	82,224	—	1,128,138	1,210,363	370,923	1,581,286	△1,581,286	—
計	8,963,947	743,397	1,280,877	10,988,222	647,887	11,636,110	△1,581,286	10,054,823
セグメント利益又は損失（△）	293,040	62,160	114,829	470,029	56,535	526,565	△569,862	△43,297

（注）1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告代理業や卸売業、有料職業紹介業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△569,862千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

「飲食事業」セグメントにおいて、サンクスマインド株式会社の全株式を取得し子会社化いたしました。当該事象により発生したのれんの金額は、当第3四半期連結累計期間においては、36,737千円であります。